

通算第228回

2023年度(令和5年度)第2回史跡めぐり

筑波海軍航空隊記念館・笠間稻荷神社・春風萬里荘

◎筑波海軍航空隊記念館

筑波海軍航空隊……筑波海軍航空隊は1934(昭和9)年、霞ヶ浦航空隊友部分遣隊として開隊。1938(昭和13)年に独立、筑波海軍航空隊となる。戦闘機などの操縦訓練を行う海軍の練習航空隊であったが、アジア・太平洋戦争末期には特別攻撃隊も編制され、「特攻」の訓練も行われた。

2013年、公開された映画『永遠の0』の物語上の舞台、撮影地として注目が集まり、現存する海軍航空隊司令部庁舎内を、関連資料の展示

と共に期間限定公開。2018年、筑波海軍航空隊関連資料などを展示する展示館を旧司令部庁舎に併設。市の指定管理を受け記念館事業を開始した。



◎笠間稻荷神社

創建は、社伝によれば第36代孝徳天皇の御代、白雉2年(651)と伝えられています。その後幾星霜を経て、桜町天皇の御代、寛保3年(1743)には時の笠間城主井上正賢により社地社殿が拡張され、又延享4年(1747)牧野貞通が城主となるや先例により祈願所と定められ、境内地・祭器具等が寄進されました。以来歴代藩主の篤い尊崇を受けました。

御祭神は、宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)生命の根源を司る「いのち」の根の神として農業、工業、商業、水産業など、あらゆる殖産興業の守護神として人々の生活すべてに御神徳を授けて下さる神さまです。日本の神

話が書かれている『古事記』によると、宇迦之御魂神は須佐之男命(すさのおのみこと)と神大市比売神(かむおおいちひめのかみ)の間の御子とされています。農牧、水産、養蚕を始めあらゆる殖産興業の神、蘇生(よみがえり)の神、生成発展の神、産霊(むすび)の神、火防の神として靈験あらたかな御神徳が普く全国の人々より崇敬されています。往古、この地には胡桃の密林があり、そこに稲荷大神さまがお祀りされていたことから、「胡桃下稲荷」(くるみがしたいなり)とも呼ばれています。また第十三代藩主井上正賢公の一族に門三郎という人がいて、利根川流域を中心に多数の人々に功德を施し、信仰を広めたことから「お稲荷さんの門三郎」との名声を博し、いつしか門が紋にかわり「紋三郎稲荷」とも呼ばれるようになりました。今日では関東はもとより、全国から年間350万余の人々が参拝に訪れています。

「お稲荷さん」と親しまれている稲荷大神は日本人に最も身近な神さまで、五穀豊穡、商売繁栄、殖産興業、開運招福、火防(ひぶせ)の守護神として、広大無辺のご神徳を慕って多くの人々に崇敬されています。

門は、国の重要文化財に指定されていて1700(元禄13)年徳川幕府(5代将軍綱吉公)の造営。南側にある「香取神宮」の額は東郷平八郎の筆によるものです。また、迎え入れる両脇の像は、右が武内宿祢、左が藤原鎌足と云われています。



楼門をくぐると、正面に御殿があり、檜皮葺の屋根に柱や梁は極彩色で彩られた拝殿と、黒を基調とした荘厳で格式高い本殿(重要文化財)が威風堂々と構えています。本殿は楼門同様1700(元禄13)年の造営で、御殿廻りを一周できるので御祭神の御神徳を感じながら歩くこともお勧めです。

◎春風萬里荘

笠間市は、古くから稲荷と焼き物の町として広く知られてきましたが、その恵まれた自然環境は最近特に注目を集めています。豊かな緑と盆地特有の四季折々の自然界の変化の妙は、訪れる人の心を惹きつけて和ませてくれま

す。「芸術の村」は市街地を包むようにして広がるそうした緑濃い丘陵地にあります。

昭和 39(1964)年、洋画家朝井閑右衛門と小説家田村泰次郎が、長谷川に笠間日動美術館前理事長と笠間を訪れた折り、笠間にアトリエを作りたいという作家達の要望から、「芸術の村」の構想がでてきました。

昭和 40 年には、北大路魯山人が住居としていた約 300 平方メートルの茅葺き民家を北鎌倉より移築し、「春風萬里荘」と名付け、「芸術の村」は開設されました。

「春風萬里」とは、北大路魯山人が好んで用いた造語です。

春風萬里荘の前には広大な庭園があり、桜、梅、つつじ、もみじ、花菖蒲などをはじめとする多くの草木が生い茂り、それぞれの趣の花々が一年中咲き誇り、訪れる者の心をひとしお和ませます。

また、江戸時代の豪農屋敷の長屋門、北大路魯山人自らが設計した茶室「夢境庵」、京都・龍安寺を模してつくられた枯山水による石庭、睡蓮の池にかかる太鼓橋などもとのえられており、美術鑑賞に疲れた来館者に憩いをもたらしています。



北大路魯山人は、明治 16(1883)年、京都に生まれ、はじめ書家として世に出た後、

篆刻、絵画、陶芸、漆工芸などの多方面にその才能を発揮しています。

昭和 34(1959)年、76 歳で亡くなり、後 60 余年以上を経た今もさらにその評価は高まっています。

建物の内部は、魯山人が住んでいたままに残されており、「万能の異才」とうたわれ、万事に凝り性であった魯山人の才を偲ばせる箇所が随所に見られます。

昔ながらの三和土の土間の左手にある、本来は馬屋であった洋間には、年輪を刻んだ樺の木目を見せた「木レンガ」を敷きつめた床、自然石そのままを組み上げた暖炉、手斧削りの梁の棚板と古いインド風の擬人化された象の首の棚受、さらに奥には自作の陶製便器「アサガオ」があります。

風呂場は脱衣所を含めると十畳間程の大きさと、魯山人らしく、長州風呂と上り湯と洗い場がゆっくりとした広さの中に配され、周りの陶板はやはり彼自作のもので、半円筒形の織部陶板が青竹のようにめぐらされ、棕櫚縄でしめられた絵付けがなされています。



茶室「夢境庵」は、千宗旦(千利休の孫)によってつくられた裏千家の名茶室「又隠」を手本として、魯山人が設計したものです。三畳

控えの間、四畳半本勝手、洞庫口水屋からなり、床柱は黒柿、長押は南天の樹を用いています。躍り口際の塗り壁になっている部分に貴人口が設けられ、出入りを容易にしています。

これらの魯山人の手になる部分は、彼の「美的空間で日常坐臥を満たさねば、美しいものを生み出せない」との考えの下になされたものです。

2024年度 第1回史跡巡りお知らせ

- 場 所 …… 山梨または神奈川方面を予定しています。
 - 日 時 …… 令和6年6月上旬を予定
詳しくは会報・区報をご覧ください。
 - 参加費 …… 維持会員9,000円 一般10,000円
(昼食、入館料、傷害保険料を含む。)
 - ◎ 申込み …… 維持会員：5月上旬
一般区民：5月中旬
平日の午前9時～午後4時まで
- ※ 教育センター分室内・中野区教育振興会事務局へ
参加費を添えてお申込みください。
- ※ 電 話 (直通) 3228-5544